



発行・京都障害者スポーツ振興会  
題字 芝田 徳造

# ボランティアについて思うこと

京都障害者スポーツ振興会 広報部

久門 誠

今回ボランティアについて原稿を書くことになりました。私自身は広報以外の活動は現在まったくしていません。仕事（施設職員）としてはボランティアの方との関わりがある程度ですが、貴重な紙面を使いこのテーマについて私事や私見を記載することをお許しただきたいと思えます。私が子どもを育てる「無料奉仕」とか「奉仕活動」といったイメージで「ボランティア」という言葉を捉えていました。その頃はまさか自分がそのような活動を将来することになるなど、まったく思いもよらなかつたものです。そんな私が学生の頃、陸上をやっていたことが、社会福祉を学んでいたことが重なり、スポーツという接点から京都障害者スポーツ振興会でお世話になることとなりました。そこでは実際に障害のある子どもたちや先輩方と直接関わらせていただきました、そ

の生き様や、おかれていた環境を多くのことを学ばせていただきました。それから福祉施設に就職して振興会活動とは少し距離ができてしまったのですが、それでも職場を通じて様々なボランティアの方と関わる機会がありました。「介護や福祉の勉強に」「楽しそうだから」「友達に誘われて」「自分の特技（楽器演奏・写真撮影など）が活かせるなら」「動機は様々でも、皆熱心に活動していたいただきました。ボランティアの方々には感謝をしながら、ボランティアは「自分にできることを自発的にやっていくこと」として「自己実現の機会」といったことを感じていきます。もちろん上手にいったことばかりではありません。予定外の事をお願いして心労をかけたこと、また実際の場面職員が業務に追われあたふた

してしまい、充分なサポートの受け入れはとも大切な事と考えて取り組んでいます。私の働く施設の利用者さんは、ほとんどの人が意思疎通が困難であり、生活全般にわたって介護が必要であるために、家族さん、職員など限られた人との関わりが中心になつてしまいがちです。できるだけ様々な方と関わることで、より、社会の一員として豊かな生活を過ごしていただきたいのと、考えます。たくさんのお話を、一緒に見て、感じてい

可能性や体験を広げることにつなぐことができます。住みなれた地域で生活を続けるためにも、より多くの人の関わりを輪を広げることが大切になりま

す。また、ボランティアや実習等の受け入れを行なうことは、事業所が社会的評価を得る上でひとつの指針となりま

行事予定	6月	21(日)	第29回全京都障害者総合スポーツ大会 総合開会式・卓球バレー大会	京都府立体育館	来月の つどいは  7 / 14  第2日曜日
		28(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
	京都障害者スポーツ振興会ホームページ http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2009年5月10日に一部更新)				TEL/FAX075-712-7010

# スポ振ルネサンス

〜心でつなぐ活動を！〜

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

今月の掲載内容については、京都市障害者スポーツセンターの5月10日付ブログにおいて、すでに書かせていただいた内容ですが、少しでも多くの人々に理解し、考えていただくために、少し膨らませて、このスポ振ルネサンスにおいても、再度、書かせていただきたいと思います。お断りしておきます。

先月の10日に、京都市障害者スポーツセンターのプールにおいて、北は宮城県から南は九州熊本県の15都府県から20チーム305名の参加を得て、日本障害者シンクロナイズドスイミング協会主催の「障害者シンクロナイズドスイミング フェスティバル」が開催されました。

種目も、ソロ、デュエツト、トリオ、チーム1・2、フリーコンビネーションの6種目41エントリーにおいて、いろいろな面でバ

リエーションのある素晴らしい演技が披露され、観覧者や他の演技者仲間から大きな拍手・喝采を受けていました。

このシンクロナイズドイバルは、今年で数えて18回目を迎えますが、障害のある人々の関心度も回を重ねるごとに高まって、今回も新たに2地域からチームの参加が見られるなど、拡がりを見せてきています。

障害のある人々の中にシンクロナイズドには、それなりの訳、つまり、障害のある人々のスポーツを振興していく上で欠かせない条件が基本にあるからだといえるのではないのでしょうか。

その基本条件とは、  
一、年齢や性別に関係なく取り組めること。  
このことは、一般的な意味で、スポーツに縁遠い層の人にも可能なものであること。

二、障害の種別や重い軽いに関係なく取り組めること。  
このことは、障害の種別や重軽に左右される種目

としていないものであること。

三、陸上では移動が困難な人でも水の浮力によって移動が可能になること。  
このことは、普段、自由に動けない環境に置かれている障害のある人々も、身を動き易い環境におけるものであること。

四、自らの意思で自己表現ができること。  
このことは、日頃、障害があることで、自分の意思で表現することを抑圧されてきている障害のある人々にも表現する機会が確保できるものであること。

五、楽しみながらチャレンジができること。  
このことは、苦しく単調な訓練や厳しく辛いスポーツと違い、音楽に合わせて、楽しく自分の可能性を見いだせるものであること。

六、仲間ができ、共に活動ができること。  
このことは、日常生活などで孤立しがちな障害のある人々が、同じ目標を持つことでグループができ、協力・協同意識を生じさせるものであること。など

なによりも、こうした条件などが相乗的に合いまつて向上効果を高め、障害のある人々が自己の持つ可能性を追求できる場面を自らつくりあげられる環境を構築することに、障害のある人々のスポーツ活動およびその支援活動の意味があります。

これらのことは、障害のある人々のスポーツを振興していく上で欠かせない事柄といえるのですが、障害のある人々のシンクロナイズドは、まさに、その範を示している種目であると言える。も過言ではないでしょう。

皆さんが、障害のある人々にスポーツの普及・振興を進めようとすると、様々な観点から現状を捉え、どうしたら障害のある人々が活動し易い環境が構築できるかから、考えて欲しいものです。



## 京都障害者フライングディスク大会 09大会結果 各組優勝者

### アキュラシー競技

#### デスクリートファイブ

中路百合(洛南会館) 9投

桐村嵩司(福知山市)

大槻浩二(福知山市)

秋谷宗助(洛南会館)

塩見公庸(福知山市)

高谷 博(洛南会館)

山本愛咲(美東総合)

吉田 清(京丹波町)

鍛示清司(上京区)

塩見 弘(福知山市)

高谷洋子(洛南会館)

西村祐介(福知山市)

飯田 良(北区)

伊崎正史(亀岡市)

伊佐辰一(城陽市)

7 10 8 10 10 10

### ディスク競技

#### メンズ・シッティング

大槻浩二(福知山市) 36・77m

レディース・シッティング

池田亜優美(滋賀県) 20・59

#### メンズ・スタンディング

小野秀太(向日ヶ丘) 40・64

当間信二(向日ヶ丘) 39・40

中西優也(東総合) 37・00

澤井石二(山科会館) 31・91

田中保成(聴覚協会) 27・57

鳥居 猛(八木町) 27・57

秋谷宗助(洛南会館) 29・27

吉田 清(京丹波町) 16・48

#### レディース・スタンディング

徳田晴加(向日ヶ丘) 39・10

田中早苗(山科会館) 23・19

佐橋美知子(洛南会館) 19・62

太田芳子(右京区) 18・22

松村夫美子(虹の会) 16・20